

◆ 巻頭言

地球環境破壊と子どもの人身売買とのかかわりを描く
エコロジーシアター『天の浮舟』を制作して

岡本 功

「"処女"に戻るために縫合され…鉄線で叩かれ…尿を飲まされ…サソリやムカデを身体に這わされ…始終わたしをレイプします…11歳から12歳ぐらいの女の子が、わたしと同じような目にあっています」。これは『幼い娼婦だった私へ』（ソマリー・ママ著）からの抜粋で、自身も被害者である作者は、こうした出来事を児童買春宿に売られた子どもたちの日常的現実として紹介しています（“特異な犯罪”ではなく）。

私たちは環境保護イベントのテーマに即した音楽朗読劇を各地で実施しています。あるとき、イベント主催者から人身売買問題をテーマに作品をつくってほしいとの依頼を請け、上記のような現実を知ることになりました。

問題のあまりの凄まじさに絶句したのは言うまでもありません。でもこの問題の背景には、富の再分配も地球環境への順応もできないままにグローバル化し、強い者（富裕層・人間・現代等）が弱い者（貧困層・自然・未来等）を使い捨てるようになった経済システムがあります。そう知ったとき、失われるアジアの森から追い立てられるように売られた少女と、森を買い続けた側である日本の少年の交流の物語『天の浮舟』が生まれました。

「涙が止まらなかった。取り返しのつかない自然破壊、先住民族や子ども達のいたたまれない状況が、私たちの豊かな生活とも関係があることを知りショックを受けた」（『天の浮舟』に寄せられた感想から）。

上演・上映回数は10回を数え、イベントにかかわるたくさんのボランティアスタッフにとっても、この作品が問題について考え、行動するきっかけになっていると聞きました。

ここまで深刻になっている人身売買問題を多くの方に知っていただくと同時に、問題解決のきっかけを少しでもたくさんつくれるよう、作品は現在ネット公開しています。ぜひご覧になってみてください。



PROFILE

岡本 功
(おかもと いさお)

地球温暖化防止京都会議を盛り上げるイベントの制作をきっかけに地球環境保護活動を開始。現在「エコロジーシアター」などの各種環境保護イベントを実施している。また「森を育てる名刺・封筒」の普及活動も手がける。NPO 法人レインボー、NPO 法人国産材理事。『天の浮舟』は <http://rainbow.gr.jp/ukifune> で公開。